



**2014年3月期
第2四半期(4-9月)
決算説明会**

2013年11月11日

石油資源開発株式会社

注意事項

本資料に掲載されている当社の現在の計画、見通し、戦略、その他歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しを示したものです。実際の業績は、さまざまな要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。

Copyright: 本資料に含まれるすべての内容に関する著作権は、当社が有しています。
事前の承諾なく、これらの内容を複製もしくは転載することはお控えください。

注: 本資料において、1H、2H はそれぞれ上期、下期を、
(a) は実績数値を、(e) は予想数値を示しています。

本資料に関するお問い合わせ、その他IRに関するご質問は、以下にお願いいたします。

石油資源開発株式会社 広報IR部 IRグループ 電話 03-6268-7111

説明会の内容

I. 事業の概況

代表取締役社長 渡辺 修

II. 2014年3月期 第2四半期 決算の概要

執行役員 山下 通郎

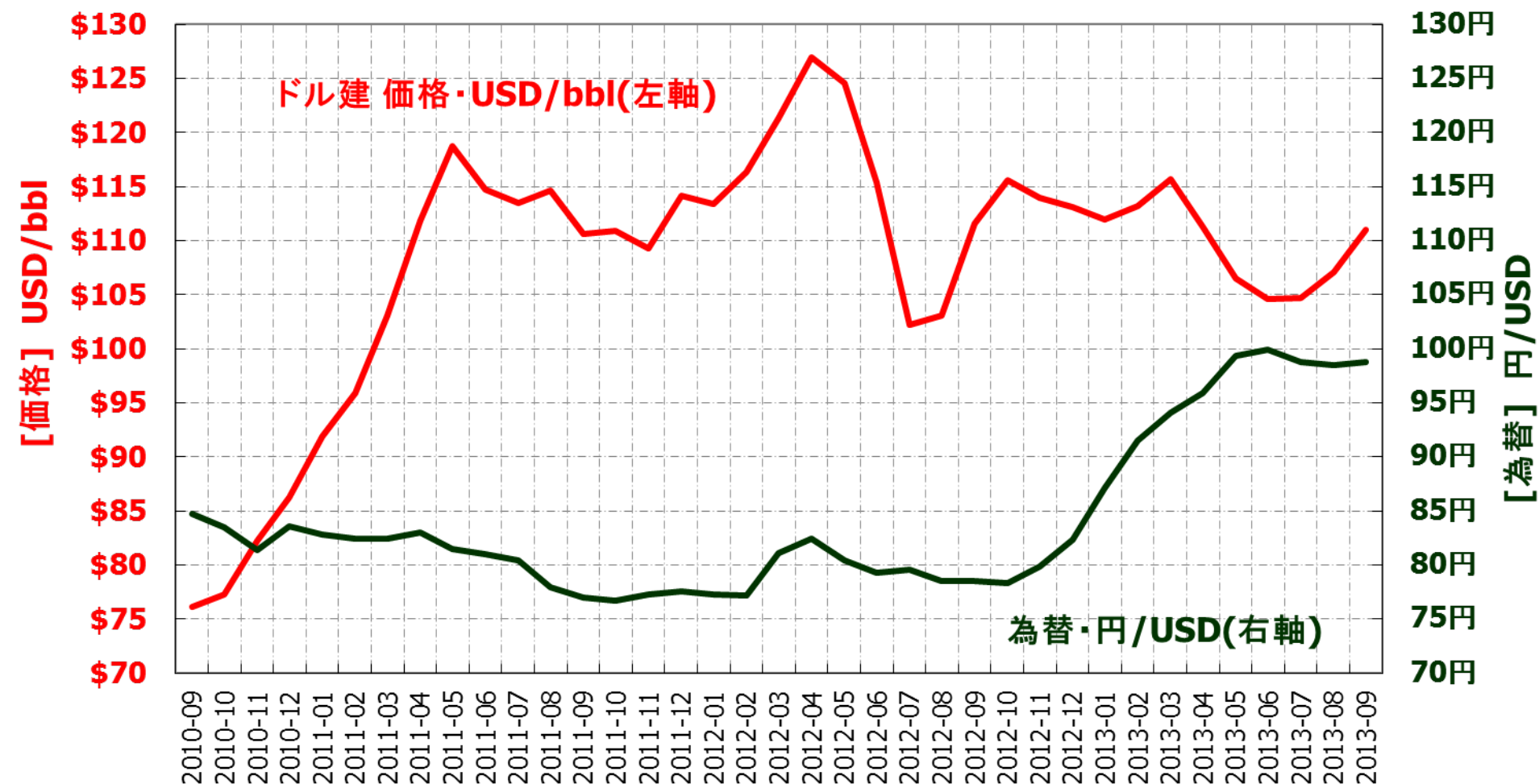
III. 2014年3月期 通期業績予想

執行役員 山下 通郎

事業概況

代表取締役社長 渡辺 修

原油価格と為替の動き



2013年10月上旬(10/1-10/10)分のCIF価格(速報)

USD 112.86/bbl 98.94円/USD

14/3月期 第2四半期(累計)決算/通期業績予想

[億円]	13/3月期		14/3月期		比較増減	
	4-9月 1H (a)	4-3月 通期 (a)	4-9月 1H (a)	4-3月 通期 (e)※	4-9月 1H	4-3月 通期
売上高	1,059	2,310	1,202	2,327	+143	+16
営業利益	17	139	115	207	+97	+68
経常利益	30	280	199	288	+168	+7
当期純利益	▲244	▲8	158	215	+403	+223

[油価と為替の前提]

原油CIF価格 (USD/bbl)	116.16	114.67	108.53	100.00	▲7.63	▲14.67
為替/米ドル (Yen/USD)	80.35	81.71	97.58	90.00	+17.23	+8.29
ビチューメン価格 (CAD/bbl)	52.02	50.71	52.22	45.87	+0.20	▲4.84
為替/カナダドル (Yen/CAD)	76.77	87.05	94.01	90.00	+17.24	+2.95

※通期の連結業績予想につきましては、海外プロジェクトの当社連結業績への影響および原油CIF価格や為替レートの変動等が不確定であるため、当初公表(2013年5月10日)予想を据え置きといたします。

【14/3月期第2四半期(累計)前年同期比 ポイント】

- 営業利益 **+97 億円 増益** ➤ 売上総利益 **+85 億円**
- 経常利益 **+168 億円 増益** ➤ 営業外損益 **+70 億円**
- 四半期純利益 **+403 億円 増益** ➤ 特別損益 **+347 億円**

国内探鉱 上期実績と下期計画

● 2014年3月期 掘削作業実績・計画

名称	掘削深度	1Q			2Q			3Q			4Q			備考
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
片貝SK-30D-1	5,268m	■												成功
岩船沖東 MS-1	3,740 m				■									探掘 成功
あけぼの Loc.A6H	5,800 m										■			次期へ 継続



■ 物理探鉱作業実績・計画

2D震探	新潟県 新潟平野 (31km) ※7月作業終了
2D震探	新潟県 うおぬま (100km) ※11月作業終了



国内天然ガス事業強化に向けた取り組み

当社はカナダシェールガス・LNGプロジェクトと相馬LNG基地建設計画の推進を通じて、国内天然ガス事業の強化を図ります。

相馬LNG基地の検討 仙台広域圏の拡販

FID検討中の相馬LNG受入基地と仙台パイプライン等の既存インフラの連携。

仙台広域圏を中心に新規天然ガス需要を開拓、供給セキュリティ向上にも寄与。

道央南部地域の拡販

勇払LNG受入基地およびLNG内航船を活用、相馬基地との連携による有機的なLNG供給システムの構築。

道央南部地域で新規天然ガス需要を開拓。

カナダシェールガス・LNGプロジェクト

2014年末にLNGプラント建設FID(予定)
2018年末にLNGの日本持込み(予定)



道央南部地域

仙台広域圏



FIDに向けて検討中の相馬LNG基地(イメージ図)

国内外を通じた
天然ガス一貫供給
体制の構築

海外事業 重点地域での取り組み

カナダ

オイルサンド(生産中&開発)
シェールガス・LNGプロジェクト
(ガス生産中 液化設備開発検討中)

サハリン1プロジェクト
(生産中&開発)

中東

イラク
ガラフ油田(生産中&開発)

サハリン

北アフリカ

東南アジア

カンゲアン鉱区(生産中&開発)
アチェA鉱区(開発&探鉱)
クラブ鉱区(探鉱)
ユニバースガスアンドオイル(生産中)
日本コールベッドメタン(探鉱)

Japex (U.S.) Corp.(生産中)

● 重点地域

● 連結子会社及び持分法適用関連会社が
権益を保有する鉱区

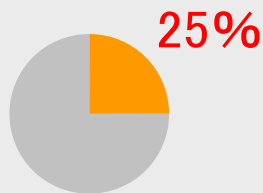
海外事業現況 ① インドネシア カンゲアン鉱区



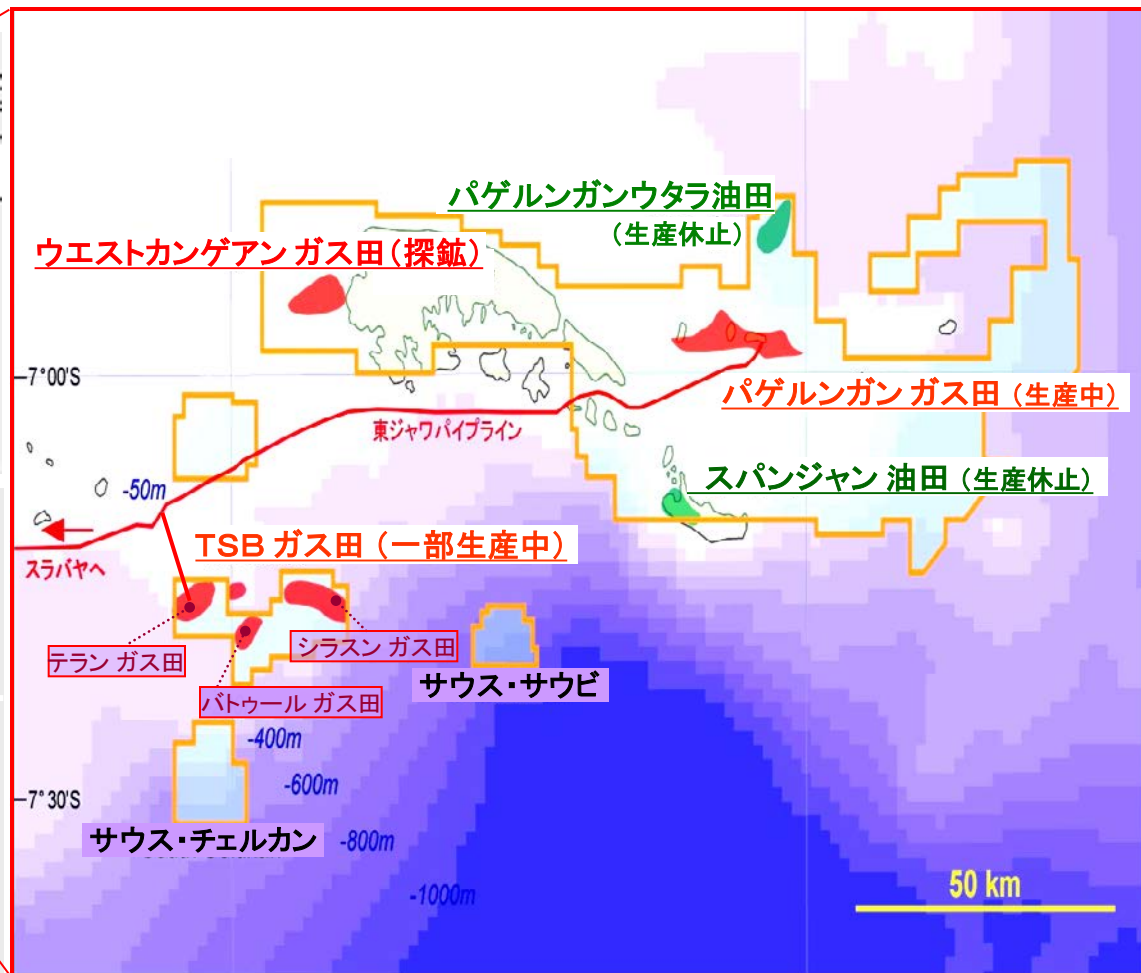
プロジェクト
会社

**Kangean Energy
Indonesia Ltd. (KEI)**
他2社：持分法適用会社

権益比率



オペレーター：KEI



■ 現在の生産規模は、原油換算で日量約5万バレル

□ TSBガス田(Phase1 テラン)：2012年5月末生産開始、最大生産日量3億立方フィート(原油換算で日量約5万バレル)

(Phase2 シラスン、バトゥール)：開発準備中

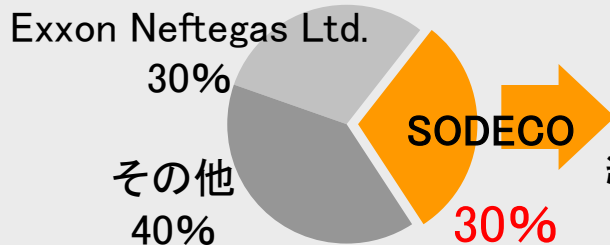
海外事業現況 ② サハリン1 プロジェクト

プロジェクト会社

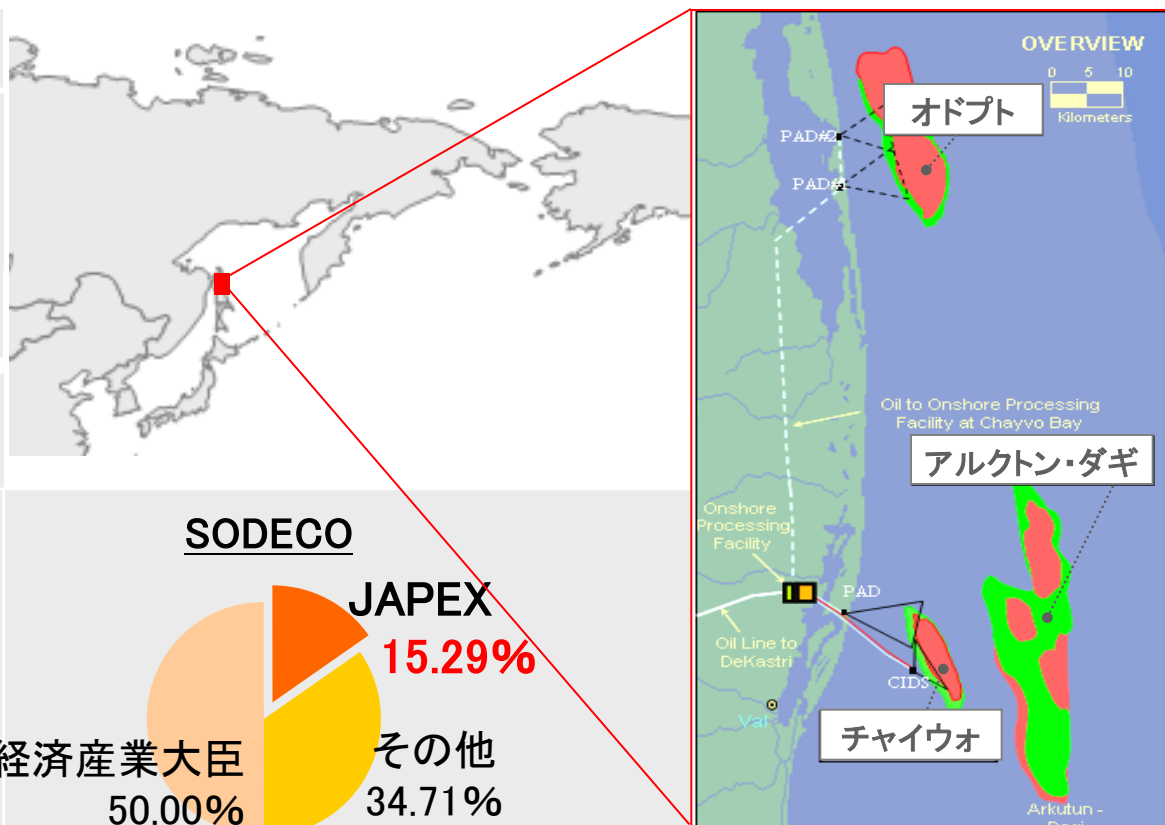
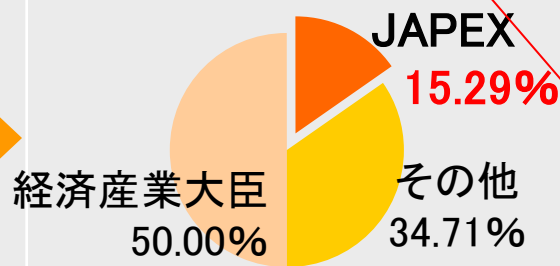
サハリン石油ガス開発(株)
(SODECO)

権益比率

サハリン1 コンソーシアム



SODECO



鉱 区

チャイウオ、オドプト：生産中（合計原油生産量：日量約12万バレル ※）

※ 当社見積もりによる、プロジェクト全体の2013年平均日産量

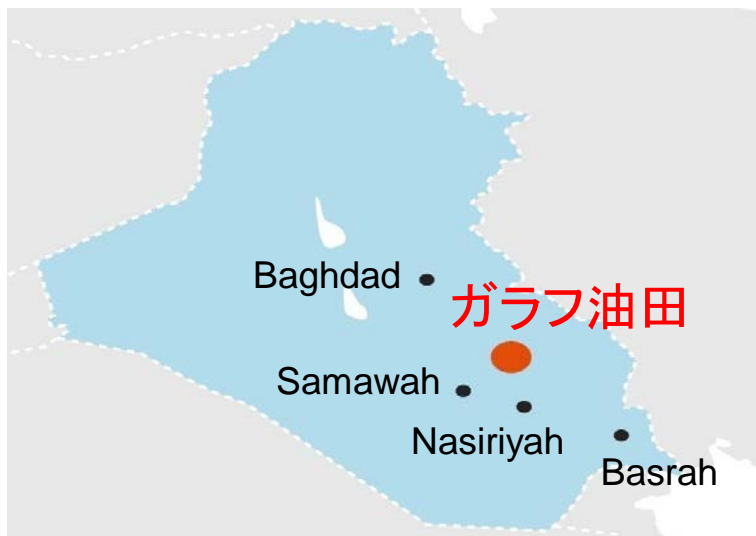
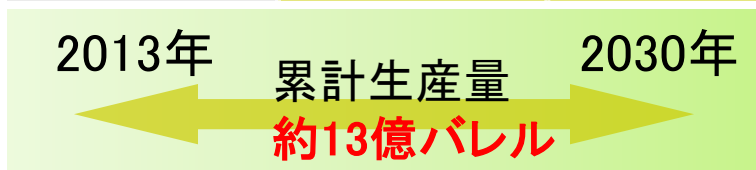
アルクトン・ダギ：2014年の生産開始に向けて開発中

海外事業現況 ③ イラク ガラフ油田開発

プロジェクト会社	(株)ジャペックスガラフ	
参加比率	<p>30% (資金負担40%)</p> <p>オペレーター：PETRONAS</p>	
油田名	ガラフ油田	生産中

■開発スケジュール

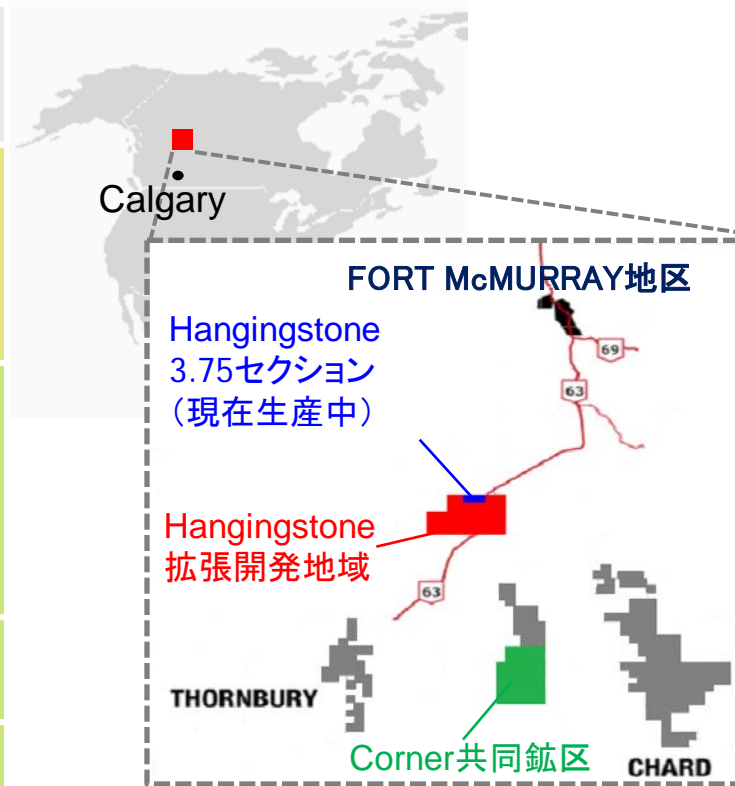
2013年	日量 3万5千バレル 規模での生産開始
2014年～2016年	段階的に生産量引き上げ
2017年	日量 23万バレル 到達予定



ファーストオイル(生産開始)の様子

海外事業現況 ④ カナダオイルサンド

プロジェクト会社	カナダオイルサンド(株) (CANOS) オペレーター：Japan Canada Oil Sands Ltd. (JACOS)	
鉱区	ハンギングストーン 3.75 セクション (権益比率) 100% 日量約6,000～7,000 バレル	生産中 (2013年9月 末累計生産 量: 3,009万 バレル)
	ハンギングストーン未開発地域 拡張開発 (権益比率) 75% (日量20,000バレル 規模から段階的拡張を予定)	開発 作業中
	コーナー共同鉱区 (権益比率) 12%	評価 作業中
	その他ビチューメン鉱区 (コーナー、チャード、ソンベリー等)	検討中



■ 拡張開発スケジュール

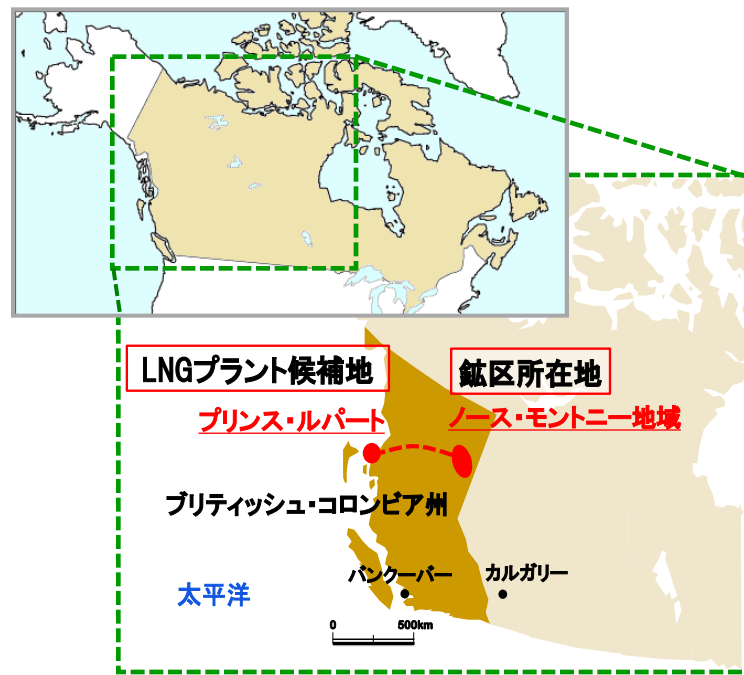
2012年	12月：最終投資決定(FID)
2013年	2月：開発工事着手(初期土木工事)
	8月：水平井掘削開始
	9月：主要施設のEPC契約締結
2016年	生産開始予定



ビチューメン生産プラント

海外事業現況 ⑤ カナダシェールガス・LNGプロジェクト

	シェールガス開発・ 生産プロジェクト (上流)	LNGプロジェクト (中流)
鉱区/ プラント 候補地	カナダ ブリティッシュ・コロ ンビア州ノース・モントニー 地域	同州プリンス・ルパート レルー島
当社参 加比率	10%権益 	10%持分 
オペ レーター	PETRONAS社 (子会社含む)	PETRONAS社 (子会社含む)
現況	シェールガス生産・販売中	設備基本設計を実施中



ノース・モントニー地域での掘削作業

■プロジェクトスケジュール

2013年4月26日	契約締結
2014年末	LNGプラント最終投資決定(FID)予定
2014年～2018年	LNGプラント建設
2018年末	LNG生産開始(1200万トン/年)

環境・新技術事業等の取り組み

太陽光発電事業



北海道鉱業所発電所 完成予想図

秋田・女川層タイトオイル



鮎川油ガス田における実証試験



秋田



苦小牧
(2件)

武佐岳地域
(標津町)

磐梯山
周辺地域

渥美半島～志摩半島沖
(第二渥美海丘)

地熱発電事業



武佐岳地域での掘削作業

メタンハイドレート



画像提供: JOGMEC



第1回メタンハイドレート海洋産出試験

2014年3月期 第2四半期 決算の概要

執行役員 山下 通郎

14/3月期 第2四半期累計期間 決算サマリー

単位: 億円	13/3月期 1H実績 (a)	14/3月期 当初予想 1H (e) 5.10公表	14/3月期 1H実績 (a)
売上高	1,059	997	1,202
営業利益	17	93	115
経常利益	30	125	199
四半期純利益	▲244	97	158

億円
当初予想比

+21%
+24%
+60%
+64%

原油CIF価格と為替 (原油CIF: USD/bbl 為替: 円/USD)

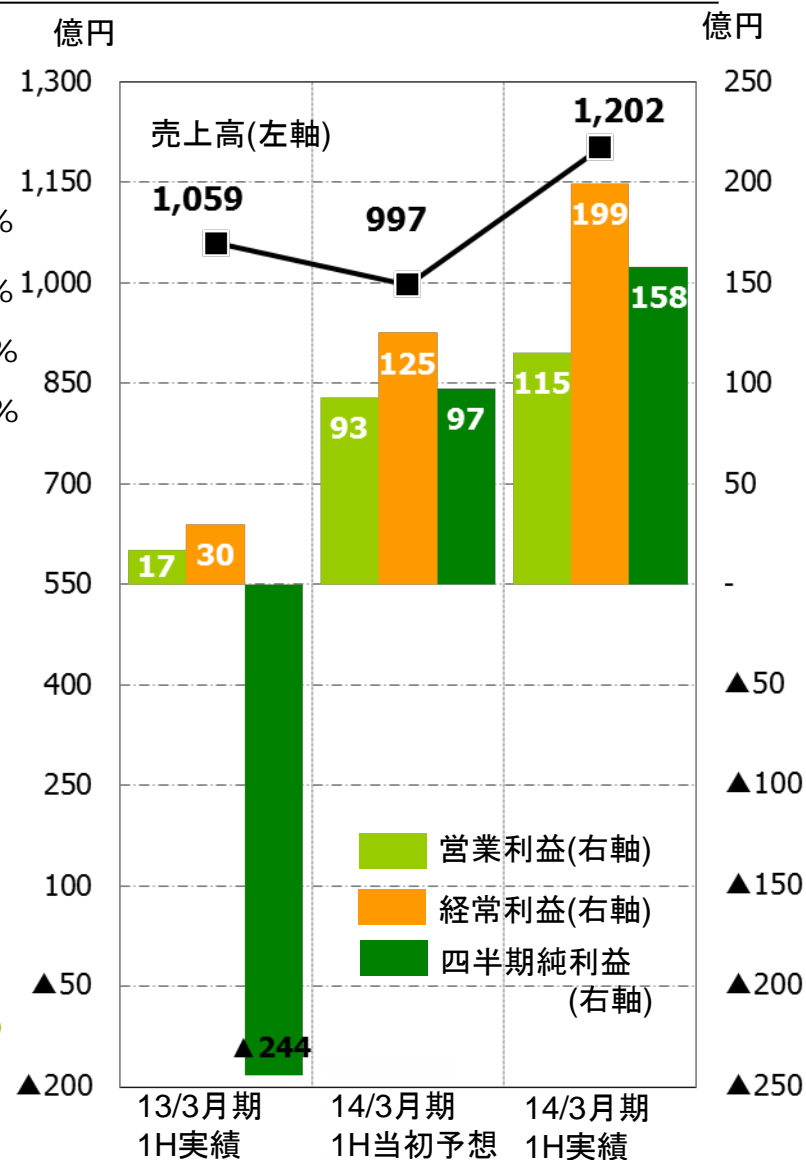
原油CIF	116.16	100.00	108.53
為替/USD	80.35	90.00	97.58

ビチューメン価格と為替 (ビチューメン: CAD/bbl 為替: 円/CAD)

ビチューメン	52.02	47.25	52.22
為替/CAD	76.77	90.00	94.01

当初予想との差異【ポイント】

- 営業利益 +22億円:
売上総利益 +23億円、探鉱費 ▲2億円
- 経常利益 +74億円:
持分法投資利益 +32億円、為替差益 +5億円
- 四半期純利益 +62億円: 法人税等 ▲12億円

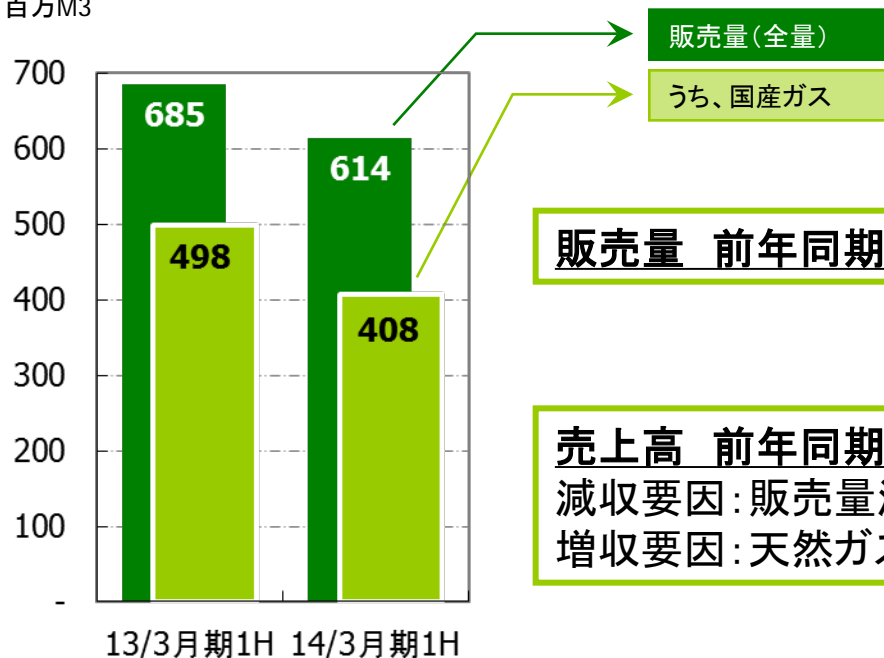


14/3月期 第2四半期累計期間(天然ガス販売状況)

販売量: 百万M3 売上高: 百万円		13/3月期	14/3月期	比較増減 前年同期比
		12/4-9月1H (a)	13/4-9月1H (a)	
天然ガス	販売量	685	614	▲70
	売上高	30,054	31,883	+1,828
うち、 国産ガス	販売量	498	408	▲89

本資料における「国産ガス」の販売量は、買入ガスを除く数値を記載しています。

百万M3



販売量 前年同期比 ▲70百万M3 (▲10%) 減少

売上高 前年同期比 +1,828百万円 (+6%) 増加
 減収要因: 販売量減少▲70百万M3(▲10%)
 増収要因: 天然ガス販売価格上昇

14/3月期 第2四半期累計期間(原油販売状況)

販売量: 千KL 売上高: 百万円		13/3月期 12/4-9月 1H (a)	14/3月期 13/4-9月 1H (a)	比較増減 前年同期比	
原油	販売量	920	877	▲42	
	売上高	46,463	53,919	+7,456	海外買入原油売上増加
権益原油の内訳					
国産原油	販売量	240	188	▲51	生産量減少
	売上高	14,291	12,828	▲1,462	
海外原油	販売量	1	8	+7	
	売上高	61	478	+417	
ビチューメン	販売量	187	165	▲21	
	売上高	4,708	5,110	+401	ビチューメン価格上昇
原油価格と為替の前提					
原油CIF	USD/bbl	116.16	108.53	▲7.63	
為替	円/USD	80.35	97.58	+17.23	
ビチューメン	CAD/bbl	52.02	52.22	+0.20	
為替	円/CAD	76.77	94.01	+17.24	

本資料における「国産原油」の販売量及び売上高は、買入原油を除いております。

また、「海外原油」の販売量及び売上高は、海外連結子会社であるJapex (U.S.) Corp.、JAPEX Montney Ltd.の数値を記載しています。

14/3月期 第2四半期累計期間 決算概要(前年同期比)

単位:百万円	13/3月期	14/3月期	比較増減
	12/4-9月 1H (a)	13/4-9月 1H (a)	
売上高	105,958	120,281	+14,323
売上総利益	23,638	32,161	+8,522
探鉱費	7,316	5,723	▲1,593
販管費	14,542	14,893	+350
営業利益	1,778	11,543	+9,765
営業外損益	1,284	8,358	+7,074
経常利益	3,062	19,902	+16,839
特別損益	▲34,773	2	+34,775
法人税等	▲7,772	3,983	+11,755
少数株主利益	495	38	▲456
四半期純利益	▲24,433	15,883	+40,316

損益変動要因 (MEMO)
「増益要因を +」、「減益要因を ▲」
で記載

売上総利益

国内原油天然ガス	+67億円
LNG代替費用	+16億円

探鉱費

国内探鉱	▲3億円
海外探鉱	+19億円

営業外損益

持分法投資利益	+47億円
為替差益	+9億円
有価証券売却損益ほか	+6億円

特別損益

権益譲渡益	▲24億円
勇払油ガス田の生産操業 に係る事業用資産の減損	+370億円

2014年3月期 通期業績予想

執行役員 山下 通郎

14/3月期 通期業績予想

	14/3月期	14/3月期
単位:百万円	5/10公表 (e)	11/08 予想
売上高	232,692	
売上総利益	61,972	
探鉱費	9,184	修正 いた しません
販管費	32,066	
営業利益	20,722	
営業外損益	8,062	
経常利益	28,783	
特別損益	▲90	
法人税等	6,502	
少数株主利益	680	
当期純利益	21,511	

通期業績予想は、以下の不確定要素があるため、
前回公表予想を据え置きといたします。

①海外探鉱費用の増加

②持分法投資損益の見通し

③カナダシェールガス・LNGプロジェクトの
業績見通し

通期業績予想を見直す必要が生じた場合には、
速やかに開示する予定です。

カナダシェールガス(上流部分)の減価償却について

■生産高比例法イメージ図

開発シナリオが定まらないと
CAPEXの予測ができない

開発シナリオが定まらないと生産量の
予測ができない

減価償却費

=

コスト要素

×

生産量

埋蔵量

FIDが予定されている2014年末までの開発シナリオにより、埋蔵量の増加速度が影響を受ける

償却率が定まらない

・開発基本計画等が定まっていくことで、順次、見通しが可能となる見込み